

開講年度	令和6年度	開講課程	博士前期課程
授業名	器官病態内科学特別演習		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病 (呼吸器内科学) 呼吸器疾患 (循環器内科学) 循環器内科学 (腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病 (リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患、自己抗体		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 教授 松岡孝昭、准教授 森田修平 (呼吸器内科学) 教授 山本信之、准教授 中西正典、准教授 洪 泰浩、講師 早田敦志 (循環器内科学) 教授 田中 篤、准教授 谷本貴志、講師 山野貴司、講師 黒井章央、講師 塩野泰紹 (腎臓・体内環境調節内科学) 教授 荒木信一、助教 中島悠里 (リウマチ・膠原病科学) 教授 藤井隆夫、准教授 岩田 慈	
	薬		
授業の概要	糖尿病・内分泌代謝内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、リウマチ・膠原病科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、内科系の各分野における主要テーマについて文献を読み、専門的知識及び基礎・臨床研究の手法について学ぶとともに、臨床知識・技術を修得する。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。		
到達目標	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病発症メカニズムについて理解する。 (呼吸器内科学) 呼吸器疾患の成因・疫学・診療を高い知識レベルで理解する。 (循環器内科学) 循環器内科学における最新の診断学の方法論について理解する。 (腎臓・体内環境調節内科学) 腎臓による体内環境調節機構とその治療法を理解する。 (リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患における自己抗体・抗核抗体の重要性を自ら説明できる。		

授業計画	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病に関する概説的な講義を行う。また糖尿病発症メカニズムに関する最新の文献を読み、教員と議論を行うことにより、糖尿病に関する理解を深める。(松岡孝昭/森田修平)</p> <p>(呼吸器内科学) 呼吸器疾患の診療・研究における最近の動向：呼吸器疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、呼吸器疾患に関する理解を深める。(山本信之/中西正典/洪 泰浩/早田敦志)</p> <p>(循環器内科学) 循環器内科学における、最新の画像診断法・生理学的診断法の実践的演習：循環器疾患に関するイメージングを用いた診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法の最新の研究手法および成果を学び、それらを用いた臨床課題の解決能力を涵養する。(田中 篤/谷本貴志/山野貴司/黒井章央/塩野泰紹)</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 腎疾患の発症機序と最新の治療法：腎疾患の発症機序、治療に関する文献を抄読し議論を行うことで、自らが新たな臨床課題を見出すことができる能力を養う。 (荒木信一/中島悠理)</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 全身性エリテマトーデス(岩田が担当)や関節リウマチ(藤井が担当)に関して、その患者血清中に見いだされる自己抗体・抗核抗体の種類と臨床的意義を講義する。特にその測定法と結果の解釈、また今後の課題を示し、いかなる研究テーマを選択するかをディスカッションする。(藤井隆夫/岩田 慈)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%(討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など)によりS(90点以上)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー(学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 特に指定しない。</p> <p>(呼吸器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(循環器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 特に指定しない。</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 特に指定しない。</p>